

令和5年度、探究びらき！

G探アドバイザー高橋さんの講演&交流会を行いました



講師の高橋さん(筑波大2年)

昨年度末に初めての卒業生(1期生)を送り出して、少し寂しくなったグローバル探究科にも、4期生となる1年生9名の入学があり、再び賑やかさを取り戻しつつあります。それぞれ1学年ずつ進級した2期生、3期生たちは、なかなか顔つきもちよつとお兄さん・お姉さんになったような感じがします。教室も変わって、先生も変わって、心機一転、令和5年度のスタートです！
少し前になりますが、4月12日(水)に、今年度初めての探究活動として、探究講演と交流会が行われました。今日はその様子をレポートします。

グロ探通信

01号

★編集★
グロ探通信班



姿勢よく聞く1年生たち

講師は、土佐高校出身で現在筑波大学2年生の高橋孝弥さん。今年度、G探のアドバイザーもお引き受けくださっています。高橋さんからは、ご自身が高校時代におこなった探究についての説明と、試行錯誤の軌跡や探究を通して気づいた意義についてのお話をいただきました。入学してたった5日しか経っていない1年生は少し緊張気味でしたが、しっかりとお話を聞き、熱心にメモを取っていましたよ。
1年生は人数は少なくとも、逸材ばかりの予感！高橋さんも感心してくださっていました。



2年生の発表を聞く1, 3年生と先生

2時間目は、2年生から昨年度の探究の発表を聞きました。2年生は昨年度の終わりから、もう何度となく発表してきた内容なので、ポスターセッションにも慣れたもの。台本なしで説明をし、質疑応答にも応じていました。
2年生たちは、1年前には緊張してただ話を聞くしかできなかったのに、今はもうしっかり先輩になつていて、時の流れは速いなあ…と、しみじみしました。きつと同じことを来年の4月にも思うのだろうな…という予感もしつつ、1年生たちの後姿を見ておりました。1年後のゴールイメージはできただかな？

3時間目は縦割り班になって、学年間の交流会を行いました。
まずは、副学科長の村先生のリードのもと、1年間の探究活動を通して身に付ける「名札」の作成です。中村先生からは「名札には、自分の名前とふりがな、そして何か一言を書くように」「この間に、話したことのない人と言葉をお交わすように」という指示がありました。
きつそく名札を書くこととする生徒たちですが、テーブルにあるマジックは、人数分よりも少ない…。もちろんこれは、話のきっかけをつくる仕掛けです。生徒たちはぎこちないながらも、別の学年の先輩・後輩たちに話しかけながら、頑張つて名札を作っていました。名札の裏は、同じことを英語で書くようにしています。何を書いたかお互いに英語で共有するなど、「おっ！グローバルっぽいぞー」と思う時間が流れていました。



縦割り班になって交流する生徒たち



した。質を気にせず、他者の意見を否定せず、とにかくどんどん意見を出すこの形式にしたのも、もちろん交流を促すための仕掛けの一つです。
「クイズを障害物に見立てた障害物競走」や「お題のものをその場で作ってもっていく借り物競争」など、既存の競技にひと工夫加えた競技を考える班、「フルーツバスケット」や「ワードウルフ」など、自分たちがやって楽しかった競技を挙げていく面白かったです。
さあ、令和5年度もみんな楽しんで探究していきましょう！